

土砂防波だより



清藤海岸(伊豆市)

年頭の御挨拶	2
2020年しずおかの砂防10大ニュース	
令和3年度 政府予算案閣議決定	3
全国治水砂防促進大会及び支部要望活動	4
静岡県支部臨時役員会を開催	5
市町等砂防担当職員現場研修を開催	
「ふじのくに建設技術エキスパート制度」砂防部会を開催	
令和2年土砂災害の発生状況及び施設効果	6
「土砂災害防止啓発電柱広告に関する協定」を締結	7
「土砂災害防止講習会」、「土砂災害出前講座」及び「ひとくち講座」の開催	
県内の国が施行する(直轄)砂防事業の紹介(国土交通省沿津河川事務所)	8
わがまち(南伊豆町)	9
歴史探訪 本県初の砂防工事	
インフォメーション	10
お知らせ	12

速報 令和3年度 政府予算案閣議決定

特集 全国治水砂防促進大会
及び支部要望活動

市町等砂防担当職員現場研修

総括 令和2年 土砂災害の発生状況及び施設効果

全国治水砂防協会静岡県支部

年頭の御挨拶



全国治水砂防協会静岡県支部
支部長 原田 英之

謹んで新春のお慶びを申し上げます。

会員をはじめ関係者の皆様におかれましては、日頃から当支部の活動に対し、多大なる御支援と御協力を賜り、厚くお礼申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナに振り回された年でありましたが、全国で約1,300件の土砂災害が発生し、残念ながら死者行方不明者も22名に上っています。中でも令和2年7月豪雨は、九州5県や長野県、岐阜県において大雨特別警報が発表され、降り始めからの雨量が1,000ミリ以上となる地点が観測され、熊本県球磨川の河川氾濫等により甚大な被害を引き起こしました。その際発生した土砂災害は、全国37府県で950件を超え、17名が犠牲になるなど、近年で最も広域の被害であったと伺っております。

本県におきましても、年間土砂発生件数は48件と平年をやや下回ったものの、7月の月降水量が多くの観測所で最大値を更新した影響で、土砂災害警戒情報の月間発表数は例年の年間を上回る10回、97地区となり、市町では、避難勧告等の発令や避難所の開設などの対応に追われたところでした。

この7月豪雨による土砂災害では、人家半壊2戸、一部破損3戸の住宅被害がありましたが、ソフト対策の効果、急傾斜施設や砂防堰堤の整備により、幸い人的被害はなかったと伺っております。

また、地すべりが発生した浜松市天竜区の2箇所やがけ崩れが発生した賀茂地域の3箇所では、県当局の迅速な対応により災害関連緊急事業に採択されたことと伺っており、地域住民のため早期の工事完了を期待しております。

土砂災害を防止するためには、国・県により土砂災害防止施設の整備を一層推進していただくとともに、日頃から住民の防災意識の向上と併せ、豪雨等で危険性が高まった際の実効性のある避難体制の構築がさらに重要になってきております。昨年3月に、県が土砂災害警戒区域の指定を完了し、土砂災害の発生する恐れのある箇所が明確になったところであり、ハザードマップの作成・配布、住民への避難情報の適時適切で確実な伝達など一層充実・強化を図っていくことが大切です。

今年は、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」の決定を追い風にして、「土砂災害による死者数ゼロ」を目指し、引き続き県と連携し、地域の安全・安心を確保する砂防関係事業の普及・発展に努めてまいります。

会員の皆様におかれましては、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げますとともに、今年は平穏な年であるよう祈念して、年頭の御挨拶とさせていただきます。

2020年 しずおかの砂防 10 大ニュース

「土砂災害防止に関する絵画・作文コンクール」の表彰

「土砂災害防止に関する絵画・作文」コンクールで御殿場市立高根中学校の瀬戸さんが国土交通大臣賞、静岡市立清水小島中学校の山下さん、県立浜松西高等学校中等部の渡邊さん、小山町立北郷中学校の高杉さんの3名が国土交通事務次官賞を受賞。



7月豪雨の土砂災害を受けて災害関連緊急事業を実施

7月豪雨において、浜松市天竜区の地すべり2件、下田市、南伊豆町、松崎町のがけ崩れ各1件において、災害関連緊急事業を採択を受け、事業に着手。



記録的な豪雨であった7月豪雨

7月は県下全域において、平年比300%を越えるような降水量が観測され、県内30箇所のうち25箇所の観測所で月降水量の最大値を観測。7月の土砂災害警戒情報の発表も10回、97地区にのぼり、例年の年間発表回数を上回った。

土砂災害警戒区域の指定が完了

令和元年度までに県内全ての危険な箇所の基礎調査を完了した結果、土砂災害警戒区域の指定が必要な18,215箇所の区域指定が完了。

土砂災害防止功労者の大臣表彰

令和2年度の土砂災害防止功労者として、小山町の内田肇さんが大臣表彰。県内の個人の一部では14年ぶり10人目となり、6月25日に小山町役場で伝達式を開催。



「土砂災害防止月間啓発活動」の実施

6月1日(月)、「土砂災害防止月間」の始まりに合わせ、静岡駅改札口コンコースで啓発活動を実施し、県と国土交通省静岡河川事務所、静岡地方気象台、静岡市の職員が参加。



令和3年度 政府予算案閣議決定

令和2年12月21日(月)、令和3年度政府予算案が閣議決定されました。国土交通省の行政経費等を含む予算額は、国費ベースで対前年度比0.99倍の5兆8,981億円となっています。なお、令和2年度第3次補正予算を含めると、対前年度比1.55倍の9兆1,893億円となり、防災・減災・国土強靱化の取組の更なる加速化・深化を図っていきます。

予算のポイントの内、砂防関係事業に関するものを示します。

国土交通省関係予算国費

事 項	令和3年度 (A)	令和2年度 (B)	対前年度倍率 (A/B)
水管理・国土保全局関係予算	9,204	8,961	1.03
治水事業等関係費	8,768	8,665	1.01
河川関係	7,313	7,218	1.01
砂防関係	1,305	1,299	1.00
海岸関係	150	148	1.01
下水道事業関係費	437	297	1.47
社会資本総合整備	14,851	15,125	0.98
うち防災・安全交付金	8,540	7,847	1.09
その他(道路・港湾等)	34,926	35,225	0.99
合 計	58,981	59,311	0.99
令和2年度第3次補正予算を含めた合計	91,893	59,311	1.55

1. 沖縄振興予算の国土交通省関係分を含む。
2. 本表のほか、以下のものがある。
(1) 委託者の負担に基づいて行う 附帯・受託工事費 910億円
(2) 復旧・復興事業(東日本大震災復興特別会計) 398億円
3. 前年度予算には、臨時・特別の措置を含まない。
4. 計数は、整理の結果異動することがある。

砂防関係事業における主要項目

令和元年東日本台風や令和2年7月豪雨など近年の災害を踏まえ、命を守るとともに地域の社会生活や経済活動における被害を最小化するため、住民の生活を支えるインフラ・ライフラインを保全するため、以下の項目を重点的に推進する。

- ・近年の災害を踏まえた土砂災害防止施設の重点的整備の推進
- ・土砂・洪水氾濫対策としての遊砂地等の整備の推進
- ・流木等を確実に捕捉する砂防堰堤等の整備の推進
- ・インフラ・ライフラインや集落の基幹的施設等を保全する土砂災害対策の推進
- ・土砂災害の被災地域における集中的な再度災害防止対策等の強化

砂防関係事業の新規制度等

「まちづくり連携砂防等事業」の創設

地域のコンパクト化を計画的に促し、住居や基礎的な公共インフラを集約しようとする地域を保全する砂防等事業を計画的・集中的に進めるため、個別補助事業制度を創設する。

土砂災害リスク情報整備事業の追加

土砂災害警戒区域の現地表示など土砂災害リスクに対する住民の理解向上を図る取組を促進するため、これらの取組を防災・安全交付金の支援対象に追加する。

「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」閣議決定

令和2年12月11日(金)に、「防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策」が閣議決定されました。実施期間は令和3年度から7年度までの5年間で、事業規模は概ね15兆円程度(うち国土交通省関連9.4兆円)が目途として示されました。

■3か年緊急対策からの主な拡充項目(砂防関係事業に関するものを示します。)

- (1) 激甚化する風水害や切迫する大規模地震等への対策
 - ア 人命・財産の被害を防止・最小化するための対策
 - ・流域治水対策(河川、砂防、海岸等施設の整備、遊水地・貯留施設の整備加速等)
 - イ 予防保全型インフラメンテナンスへの転換に向けた老朽化対策
 - ・河川、ダム、下水道、砂防、海岸、道路、都市公園、港湾、鉄道等の老朽化対策
- (2) 国土強靱化に関する施策を効率的に進めるためのデジタル化等の推進
 - ア 国土強靱化に関する施策のデジタル化
 - ・河川、砂防、海岸分野における施設維持管理、操作の高度化対策

全国治水砂防促進大会の開催

11月19日(木)、全国治水砂防促進大会が砂防会館(東京都)で開催され、3名の会員が参加。大会後には県選出国會議員と国土交通省への要望活動を実施。



「電柱広告を活用した土砂災害警戒区域の周知」に関する協定の締結

土砂災害警戒区域の現地表示の手法の1つとして、新たに電柱広告を活用するため、県、広告協会及び電柱広告事業者の3者で協定を締結。



「事前に備える防災講座」のYouTubeを開設

コロナ禍でもできる啓発活動として、河川砂防局若手職員で「事前に備える防災講座」を作成し、YouTubeの県公式チャンネルやどぼくらチャンネルで配信を開始。

土砂災害警戒情報補足情報システムの改修

スマートフォン版の開設のほか、危険度の表示方法の切り替えや多言語化に対応。

番外

台風の日本上陸なし

2月に神奈川県逗子市の市道で斜面崩壊が発生し、高校生が犠牲

全国治水砂防協会通常総会のコロナ禍での縮小開催 静岡県支部通常総会は書面開催

※順番、枠の大小、写真の有無などについては、ニュースの大小を表しておりません。

全国治水砂防促進大会及び 支部要望活動

11月19日(木)に、全国治水砂防促進大会が砂防会館で開催されました。全国から、会員(市町村長)や国・都道府県の砂防事業関係者1,000名超が参加され、当支部からは原田支部長を始め4名の会員が出席されました。

大会は、綿貫民輔会長の挨拶、岩井茂樹国土交通副大臣の祝辞に続き、今井一之砂防部長から「土砂災害の恐ろしさ土砂災害対策の大切さ」と題した講演をいただきました。その後、会員代表として、保科郷雄宮城県丸森町長から意見発表が行われました。次に、和歌山県田辺市長の真砂充敏理事から大会提言について説明がなされ、満場一致で採択されました。

大会終了後、地元選出国會議員及び国土交通省へ、令和3年度予算確保に向けて要望活動を行いました。

お忙しい中、御出席いただきました会員の皆様には心より御礼申し上げます。



会場の様子(綿貫会長と原田支部長)



綿貫会長の挨拶



岩井国土交通副大臣の祝辞



井林衆議院議員への要望活動



宮澤衆議院議員への要望活動



今井砂防部長への要望活動

静岡県支部の要望

〇地域住民の生命・財産と県土を守る砂防関係事業への特段の配慮

1. 直轄砂防事業の推進

- 富士山砂防事業：富士山麓の火山砂防事業と火山噴火に対する防災対策
- 安倍川砂防事業：大谷山腹工、有東木地区砂防堰堤工群 等
- 狩野川砂防事業：上白岩砂防堰堤群、松沢川砂防堰堤群 等

2. 直轄地すべり対策事業の推進

- 由比地区直轄地すべり対策事業：深礎杭、排水トンネル

3. 県による土砂災害防止施設の整備とソフト対策の推進への支援・協力

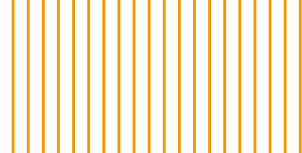
- 人家に加え、避難地関連施設や要配慮者利用施設、重要交通網や緊急輸送路等を保全する土砂災害対策の推進
- 土砂災害が発生した地域における、緊急的な再度災害防止対策の推進
- 砂防関係施設の長寿命化対策の推進
- 市町と国・県が連携し、実効性のある避難を確保するための取組の推進

〇「防災・減災、国土強靱化のための3か年緊急対策」と同等の財源の継続的な確保



参加会員

袋井市、伊豆市、牧之原市、
静岡市(4市町/35市町)
※太字は市町長が参加：3名



静岡県支部臨時役員会を開催

10月15日(木)、全国治水砂防協会静岡県支部の臨時役員会を静岡市内で開催しました。

支部長の原田袋井市長から、4月23日の市長任期満了をもって、全国治水砂防協会静岡県支部長の職を辞する旨の説明があったことから、役員会にて今後の運営の方向性について、審議されました。

また、事務局では、コロナ禍における令和2年度の活動状況等について、中間報告を実施しました。



原田支部長の挨拶



役員会の様子

市町等砂防担当職員現場研修を開催

11月13日(金)に、市町等砂防担当職員現場研修を浜松土木事務所の管内で実施し、県内市町と県土木事務所の担当職員27名が参加し、土砂災害対策などについて学びました。

「浜松市沿岸域防潮堤整備(浜松市)」については、経緯や減災の効果、防潮堤の構造などを研修しました。「上田町特定利用斜面保全事業(湖西市上田町)」では、1事業において、がけ地の解消、避難場所の創設および他の命山材料の捻出という1石3鳥の事業について研修しました。田沢椎ノ下沢災害関連緊急砂防事業(浜松市北区田沢)」では、土石流災害が発生した箇所における緊急の対策とともに、想定外の土砂崩壊に対する工夫、苦勞した点などを現場で研修しました。

最後に、「東雲名地すべり対策事業(浜松市天竜区東雲名)」では、事業の概要や集水井の効果等を現場で研修しました。

参加者からは、「山を削って急傾斜地をなくすという方法が興味深かった。」「土砂災害の第1報は、早さが勝負であり、設計から工事までスピーディーに施工することが求められる。」「地すべりの現場は地表面の見える位置に施設はないが、横ボーリングの集水状況を見て効果を感じた。」などの感想が寄せられました。

参加市町等

《市町9市》

浜松市、三島市、島田市、磐田市、掛川市、藤枝市、袋井市、下田市、湖西市

《静岡県5土木事務所》

下田土木事務所、熱海土木事務所、沼津土木事務所、富士土木事務所、島田土木事務所



現場研修の様子(田沢椎ノ下沢)



集水井の説明(東雲名地すべり)

「ふじのくに建設技術エキスパート制度」砂防部会を開催

県では、「ふじのくに建設技術エキスパート制度」により、公共工事の品質確保や土木技術職員の技術力向上、技術の伝承に取り組んでいます。その一環として、本年度建設技術研究会(砂防部会)を立ち上げ、若手・中堅職員13名が登録しました。

10月28日(水)に第1回現地研修を開催しました。国土交通省富士砂防事務所に協力をいただき、富士山大沢川直轄砂防事業や由比地区直轄地すべり事業といった直轄事業ならではの大規模な工事のほか、県の事業箇所ではケーブルクレーンを使用した砂防工事、昨年台風でがけ崩れが発生し事業化した箇所などを見学しました。

会員からは「規模の大きさに圧倒された」「設計思想などをもっと知りたい」などの感想が聞かれました。会員は、3年間にわたり、講義や現場実習により幅広い知識と技術の習得を図っていきます。



集合写真(富士山大沢川扇状地)



抑止杭の現場状況(由比地すべり)

令和2年

土砂災害の発生状況及び施設効果

令和2年の静岡県内の土砂災害発生件数は48件(土石流等:6件、地すべり:3件、がけ崩れ:39件)で、近年10年間の平均値55件をやや下回りました。

このうち35件は、記録的な降水量を記録した「令和2年7月豪雨」によるもので、人家半壊2戸、一部損壊3戸の住宅被害がありました。幸いにも人的被害はありませんでした。

また、「令和2年7月豪雨」による土砂災害のうち4件では、既設の擁壁等が土砂や倒木を食い止め、人家等への被害を軽減したことが確認され、土砂災害防止施設が地域の安全度を着実に向上させるストック効果を発揮しています。

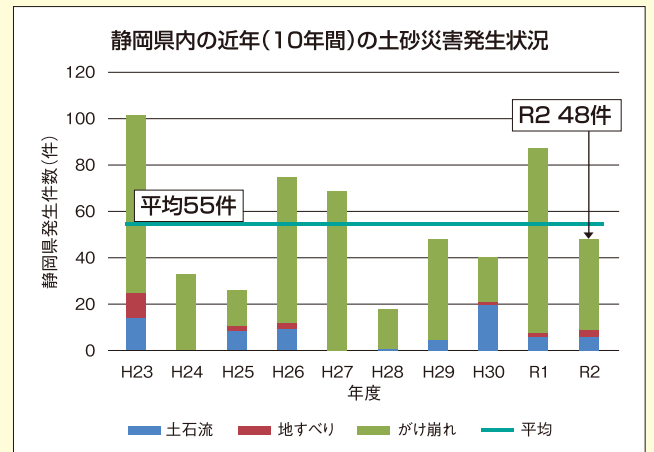
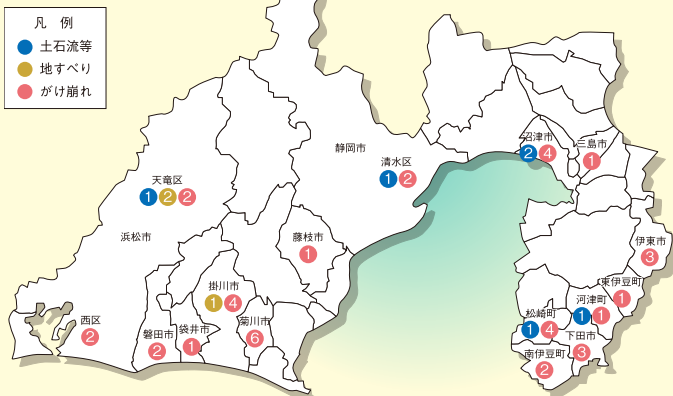
県では、引き続き砂防堰堤等の施設整備を進めていくとともに、県民の皆様の日頃の備えや適切な避難を実行して頂くため、的確な情報提供や土砂災害に関する啓発活動に努めていきます。

令和2年 土砂災害の発生状況(国交省所管)

種別	年次	令和2年									
	発生日	1月28日	3月29日	5月30日	6月19日	6月29日 ~7月1日	7月4日 ~7月28日	8月7日	8月13日	10月9日	計
	原因		豪雨		梅雨前線 豪雨	梅雨前線 豪雨	令和2年 7月豪雨			豪雨	
土石流等	発生件数					1	5				6
地すべり	発生件数					1	2				3
がけ崩れ	発生件数	1	1	1	1	4	28	1	1	1	39
計		1	1	1	1	6	35	1	1	1	48
内施設効果あり		0	0	0	0	0	4	0	0	0	4

土砂災害発生位置図

※数字は発生件数



土砂災害防止施設による効果



「土砂災害防止啓発電柱広告に関する協定」を締結しました!

砂防課では、令和2年3月に県内1万8,000箇所余りの土砂災害警戒区域の指定を完了し、今後、現地への標識設置等区域の周知に関する取組をより一層進めていきます。

この一環として新たに電柱広告を活用するため、11月11日(水)に、県、(公社)静岡県屋外広告協会及び電柱広告事業者の3者で協定を締結しました。電柱広告は、広告主が決まり次第、順次設置される予定です。



協定締結後の記念撮影

左から、
 ・東電タウンプランニング(株) 岸総支社長
 ・(公社)静岡県屋外広告協会 奈良岡副会長
 ・静岡県交通基盤部 長縄部長
 ・中電興業(株) 鈴木支社長
 ・東海広業(株) 齊藤取締役社長

(3) レイアウト(イメージ図)



協定の内容

(1) 目的

電柱広告を活用し、各土砂災害警戒区域の周知を進めることで、県民の皆様の認知度を向上させ、実効性のある避難を促す。

(2) 内容

広告主の出資により、土砂災害警戒区域内に建つ電柱に公共的広告として区域を明示する。

「土砂災害防止講習会」、「土砂災害出前講座」及び「ひとくち講座」の開催

土砂災害による人的被害を未然に防止するためには、地域住民が土砂災害の恐ろしさを理解し、日頃から身の回りの危険箇所や避難経路等を確認して、「日頃の備えと早めの避難」を心がけていただくことが重要です。

本県では、防災知識の普及活動として土砂災害警戒区域周辺の地域住民や自主防災組織の方々を対象にした「土砂災害防止講習会」や防災教育の一環として小中学生等を対象にした「土砂災害出前講座」を実施しています。

しかし今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響もあり、例年通りの開催ができませんでした。

そこで、県庁見学の時間を活用し、土砂災害警戒区域が付近にある小学校を対象に、1回5分程度で土砂災害のことを説明する「ひとくち講座」を始めました。「ひとくち講座」を受けた生徒は、自分の学校周辺の警戒区域を知り、身近な災害について考えている様子でした。

開催の御希望がありましたら、砂防課もしくは、お近くの県土木事務所までお問い合わせください。

平成30年度～令和2年度 講習会・出前講座・ひとくち講座の実施回数

	平成30年度	令和元年度	令和2年度(12月末)
講習会実施回数(受講者数)	42回(3,244名)	39回(2,645名)	1回(70名)
出前講座実施回数(受講者数)	12回(751名)	12回(1,451名)	3回(120名)
ひとくち講座(受講者数)	—	—	20回(297名)



出前講座の様子(南伊豆町立認定保育園)



ひとくち講座の様子(静岡市立駿橋北小学校)

県内の国が施行する(直轄)砂防事業の紹介 (国土交通省沼津河川国道事務所)

狩野川砂防事業

狩野川は、伊豆半島の中央部より北上する延長46kmの我国有数の急流河川です。

昭和33年9月26日、伊豆半島東岸を通過した台風22号は、狩野川流域に驚異的な豪雨をもたらし、「筏場の大崩壊」のような山崩れが発生、拡大して多量の土砂を生産し、土石流となって山あいの温泉街に被害を及ぼしました。さらに下流の田方平野は泥海と化し、死者・行方不明者853名という、我が国災害史上6番目の大災害として、「狩野川台風」と呼ばれ、歴史にその名をとどめています。

この大災害を契機に、翌年の昭和34年より修善寺橋上流を直轄砂防区域とし、上流での荒廃復旧及び流出土砂災害防止のため砂防事業の促進を図ってきました。

このため、狩野川水系全体としての氾濫による危険度は改善されてきています。しかし、上流域には341箇所もの土石流危険渓流を有しており、近年、観光・温泉・保養地等恵まれた立地条件から土地利用が進み、一度災害が起ると、大規模な被害が予想されます。さらに、当区域は、幾筋もの活断層を抱えている地域であり、地震によって地盤がゆるんだ箇所では集中豪雨により土石流が発生しやすいため、砂防施設の整備を進めています。

また、近年では集中豪雨や、台風、地震などに伴い大規模な土砂災害が全国で多発しています。このような状況から、沼津河川国道事務所では「伊豆地域における大規模土砂災害の対応に関する連絡会議」を開催し、県、市町と情報交換を行い、連携を図りながら、地域の安全を守るための取り組みを実施しています。



畑洞砂防堰堤(伊豆市)



「狩野川台風」筏場の崩壊(伊豆市筏場)



伊豆東部火山群砂防調査

伊豆半島東部地域に位置する伊豆東部火山群は、東伊豆単成火山群と、これらの東方に位置する東伊豆沖海底火山群の総称であり、陸上での分布は伊東市及び伊豆市をはじめとする3市2町にまたがり、有史以降、しばしば地下からのマグマの貫入による群発地震が発生しており、平成元年7月には伊東港の北東約3kmの沖合で海底噴火が発生し手石海丘を形成しました。これは有史以降初めての噴火でした。

活動火山対策特別措置法が平成27年に改正され、平成28年2月に伊東市及び伊豆市が火山災害警戒地域に指定、令和元年6月には熱海市が追加指定され、警戒避難体制の整備を特に推進すべき地域となりました。

これを受け、沼津河川国道事務所は静岡県砂防課と協働し「伊豆東部火山群火山噴火緊急減災砂防計画」を策定し、平成31年3月に公表しました。今後は「伊豆東部火山群火山噴火緊急減災対策砂防計画推進連絡会議」を開催し、県、市町と情報交換・連携を図りつつ、火山降下物による土石流災害の減災への取り組みを実施していきます。

南伊豆町

南伊豆町は、伊豆半島の最南端に位置し、天城山脈から連なる山地を背にして、東側は下田市、西側は松崎町に接しています。東側の日本の渚100選の「弓ヶ浜」から最南端の「石廊崎」、西側の野猿の生息地「波勝崎」までを結ぶ延長57.4kmの海岸線を有し、富士箱根伊豆国立公園や名勝伊豆西南海岸に指定されるなど、迫力のある海岸美を誇る一大景勝地です。



石廊崎最先端から空撮。中央やや右上が「石廊崎オーシャンパーク」

石廊崎地区では、「石廊崎オーシャンパーク」が整備されたことによって、石廊崎灯台や伊豆の七不思議のひとつ石室神社、縁結びの熊野神社が駐車場から近くなり、半島最先端ならではの雄大な景色も、これまでよりもお楽しみいただきやすくなりました。

また、石廊崎オーシャンパークの休憩棟には、テラス席やフードコート、売店、インフォメーション、ジオパークビジターセンター、公衆トイレなどが整備されています。

下賀茂地区から日野地区にかけては、早咲きの河津桜が、両岸4.2km、約800本植えられ、毎年2月10日から3月10日にかけて開催される「みなみの桜と菜の花まつり」では、菜の花畑とともに人々の目を楽しませてくれます。

桜が植えられている範囲が広いうえ、周囲には出店等はないため混雑を気にせず桜見物や写真撮影ができることが特徴です。



「お花見シーカヤック」染井吉野とシーカヤック



「みなみの桜と菜の花まつり」道の駅下賀茂温泉湯の花付近から空撮

また、日野地区から下流には、染井吉野が植えられ、開花時期には、散策だけではなく、「お花見シーカヤック」などが行われています。

感染症が収束した際には、どうぞ半島最先端の絶景と一足早いお花見を楽しみに南伊豆町にお越しください。

歴史探訪

本県初の砂防工事

明治30年の砂防法制定から4年後の明治34年に安倍郡玉川村（現静岡市葵区）奥仙俣が砂防設備を要する土地として砂防指定地となり、翌35年から安倍川支川中河内川小支仙俣川（奥仙俣地先）にて、県内で初めての国庫補助砂防工事を実施しました。当時は、山腹工を主体とし、法切工、萱筋工等と直接山腹崩壊を抑止する石積工及び法止護岸工が主な工法でありました。

明治37年から41年までは、日露戦争等の影響により、国庫補助砂防工事を中断していたが、明治42年から工事が再開し、44年度には熊取沢（奥仙俣地先）において、第1号の石積堰堤が完成いたしました。現在、山腹工については、自然に調和し、斜面の安定に効果を発揮し、石積堰堤については、施設の破損等がみられますが、今なお、溪床の安定に効果を発揮しています。



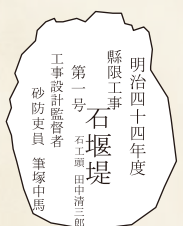
山腹工（石積）（明治35年施工）



石積堰堤（明治44年施工）



石碑



令和2年度 東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が開催される

11月5日(木)に、東海地区治水砂防協会支部長・砂防課長合同会議が「桑名商工会議所」(三重県桑名市)で開催され、当支部からは原田支部長と木村技監が出席しました。

来賓の国土交通省の今井砂防部長からは、令和2年7月豪雨の災害をはじめとする「砂防行政に関する最近の話題」、(一社)全国治水砂防協会の大野理事長からは、今年度実施した土砂災害に関する市町村へのアンケート結果について話題提供がありました。また、各支部の活動取組や課題について、各支部長との熱心な意見交換が行われました。



会議の様子

令和2年度 東海地区直轄砂防事務所長・砂防主管課長会議が開催される

11月20日(金)に、東海地区直轄砂防事務所長・砂防主管課長会議が、WEB会議により開催され、国土交通省砂防計画課森下土砂災害防止技術調整官をはじめ、中部地方整備局及び管内直轄砂防事務所長、長野県・岐阜県・静岡県・三重県・愛知県の各県砂防主管課長が出席しました。

会議では、国土交通省砂防部からの連絡事項「砂防行政に関する最近の話題」等、本省からの議題に関する討議及び各機関からの提案議題の討議が行われました。



中部ブロック土砂災害防止推進会議幹事会が開催される

10月22日(木)に、中部ブロック土砂災害防止推進会議幹事会が、国土交通省中部地方整備局(名古屋市)で開催され、国土交通省砂防計画課大山企画専門官をはじめ、中部地方整備局及び岐阜県・静岡県・三重県・愛知県の各県砂防主管課長が出席しました。

本幹事会は、各県の土木主管部長で構成される「中部ブロック土砂災害防止推進会議」(座長 中部地方整備局河川部長)に先立ち実施されるもので、国土交通省砂防部からの連絡事項「砂防部からの情報提供」、中部地方整備局からの「いのちとくらしを守る土砂災害対策の推進について」等の連絡事項及び議題に関する討議並びに各県からの提案議題の討議が行われました。

「富士砂防事務所50年のあゆみ」パネル展示が開催される

昭和45年4月に富士砂防事務所が発足して以来、今年度で50年を迎えました。これまで富士砂防事務所では、富士山「大沢崩れ」の対策をはじめとした富士山南西山麓における火山砂防事業、富士山全周の火山活動による火山防災対策事業、及び静岡市清水区由比西倉沢での地すべり対策事業を実施しています。

このたび、富士砂防事務所では「50年のあゆみ」と題し、静岡県・山梨県内の関係17市町村でパネル展示を順次開催しています。これまで県内では、富士宮市、沼津市、三島市、富士市、裾野市で開催され、今後、御殿場市、長泉町、小山町、静岡市で開催予定です。

市 町	開催期間
御殿場市	1月12日～18日
長泉町	1月25日～29日
小山町	1月26日～29日
静岡市	2月1日～5日



展示の様子(富士宮市役所)

事業評価監視委員会が開催される

11月27日(金)に、令和2年度第2回静岡県事業評価監視委員会(第1回:8月31日)が県庁で開催されました。砂防関係事業では、再評価で地すべり事業の「下里」(浜松市天竜区)など再評価12件(砂防4件、地すべり3件、急傾斜5件)が審議され、「いずれも事業を継続するのが相当である」との意見がとりまとめられました。

また、地すべり防止事業については、「近年頻発する豪雨の影響が懸念されるため、関連機関との連携を通して、早期に効果を発揮できるよう努められたい。また、住民の理解や防災意識の向上が得られるような工法、周知に努められたい」との意見が取りまとめられました。

東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議及び東海地区砂防担当者会議が開催される

10月30日(金)に、東海地区地すべり・急傾斜地担当者会議が「三重県合同ビル」(三重県津市)で、11月9日(月)に、東海地区砂防担当者会議が「じゅうろくプラザ」(岐阜県岐阜市)で開催されました。

各県の担当者のほか、国土交通省砂防部、中部地方整備局地域河川課の担当者が出席しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から両会議とも現地研修は行われず、会議のみの開催となりましたが、各県が抱える技術的な課題や近年の砂防関係事業の動向など活発な意見交換が行われました。



地すべり・急傾斜地担当者会議の様子



砂防担当者会議の様子

東海地区土砂災害防止法担当者会議が開催される

10月14日(水)に、東海地区土砂災害防止法担当者会議が愛知県労働センター「ウインクあいち」(愛知県名古屋市)で開催されました。

令和2年8月の土砂災害防止対策基本指針の変更に伴う基礎調査対象箇所の新規抽出方法や土砂災害警戒区域の看板設置など、土砂災害警戒区域の1巡目指定が完了したことを踏まえた今後の取組を中心に、活発な意見交換が行われました。



土砂災害防止法担当者会議の様子

静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会を開催

12月8日(火)に、静岡県土砂災害防止法連絡会幹事会を県庁別館で開催しました。

本幹事会は、土砂災害防止法に基づく総合的な土砂災害対策の円滑な実施を図るために、県内部の関係各課の取組や課題等について情報共有するものです。

今年度は、砂防課による、『土砂災害防止対策基本指針』の変更に伴う今後の取組に関する情報提供に加え、要配慮者利用施設における避難確保計画の作成率向上に向けた各課の取組等について、情報共有を行いました。



連絡会の様子

募集・お知らせコーナー

土砂災害防止に関する絵画・作文の応募へのお礼

6月1日～9月15日の間、県内の小中学生の皆さんに土砂災害及びその防止についての理解と関心を深めていただくため、作品を募集したところ、多数の応募をいただきました。誠にありがとうございました。なお、入選発表及び表彰式は令和3年3月を予定しています。

【応募状況】



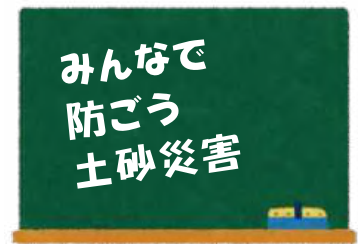
部 門	小学生	中学生	計
絵 画	1	30	31
作 文	0	38	38
合 計	1	68	69

砂防及び地すべり防止講習会のお知らせ(中止)

砂防及び地すべり対策業務を担当する職員の実務並びに関連知識の習得を通じ、今後の円滑な業務の遂行に資するため、講習会が開催されます。

日 時:令和3年2月25日(木)
 会 場:砂防会館 別館 シェーンバッハ・サポー利根
 参 加 費:2,000円(テキスト代1,000円、受講費1,000円)
 主 催:一般社団法人 全国治水砂防協会 TEL (03)3261-8386
 問合せ先:全国治水砂防協会静岡県支部 TEL (054)221-3042

※東京都に緊急事態宣言が発令されたため、中止となりました。



県公式YouTube「事前に備える防災講座」

河川砂防局では、住民が風水害や土砂災害の恐ろしさを知り、「自らの命は自らが守る」という意識を持てるよう動画を作成し、YouTubeの県公式チャンネルで配信しています!!

エンティくん

防災講座① 災害は忘れる前にやってくる!	防災講座② 適切な避難行動をとみましょう!	防災講座③ 雨の降り方について知ろう!	防災講座④ ハザードマップって何だろう?
防災講座⑤ 川の水位を知ろう!	防災講座⑥ 洪水浸水想定区域図って何だろう?	防災講座⑦ 水害リスクを確認してみよう!	防災講座⑧ 土砂災害について知ろう!
			Coming Soon



【表紙写真】

清藤海岸

(撮影地:伊豆市)

写真提供:静岡県観光協会

※砂防協会では表紙に掲載する静岡県内の写真を募集しています。皆様のご協力をお願い申し上げます。詳しくは、下記までお問い合わせ下さい。

編 集・後・記

新年あけましておめでとうございます。
 昨年は新型コロナウイルスの感染拡大により多くの行事やイベントが中止や縮小になり、不慣れなことがたくさんで悩む日々でした。
 未だ収束がつかない中、当協会に御協力してくださった関係者の皆様に御礼申し上げます。
 本年も充実した誌面作りを目指して参りますので、砂防だよりをご愛読していただきますよう、よろしくお願いたします。

砂防だよりは砂防課ホームページでご覧いただけます。 <https://www.pref.shizuoka.jp/kensetsu/ke-350/index.html>



第203号 発行日:令和3年1月15日

編集・発行:全国治水砂防協会静岡県支部

〒420-8601 静岡県葵区追手町9番6号 静岡県交通基盤部河川砂防局砂防課内
 TEL(054)221-3042 FAX(054)221-3564 E-mail:sbkk_s@yahoo.co.jp